若手リーダー錬成講座

開　設　趣　旨
基本プログラム
実　施　要　領

㈱　日　本　経　営　開　発　研　究　所

〒105－0022
東京都港区海岸１－２－２０汐留ビルディング３階
電　話　東京（０３）６７２１－８６０７番
ＦＡＸ　東京（０３）６７３５－４６０７番
Ｈ　Ｐ　http://www.nihon-keieikaihatsu.co.jp
e-mail　info@nihon-keieikaihatsu.co.jp
＊より詳細な問合せは上記に

若手リーダー錬成講座開設趣旨

㈱日本経営開発研究所

今や日本は、１人当国民所得においてヨーロッパに追いつき、国民総生産において、アメリカ・ソ連につぎ第三位の経済大国となりました。そして、この趨勢が順調に進めば、昭和 60 年頃には、1 人当国民所得において、アメリカを追い越し世界一の所得水準の国になると推算されております。

しかし、これにはいくつかの条件が必要です。その主要なものの第一は平和であります。日本は資源の乏しい国でありますので、必要な資源のほとんどは輸入に仰がなければなりません。また、輸入が多ければ輸出も多くなければなりません。かくて、昭和 50～55 年頃には日本はアメリカを追い越して世界一の貿易国になろうと推算されています。このように貿易で生活していく国にとって、世界の平和が破られれば、高度成長は一度にストップします。ところで、世界史のなかで世界一の貿易国は常に世界一の海軍国でもありました。しかし、日本はこの世界史の常識を破って丸腰で世界一の貿易国になろうとしているのであります。果たして、世界史の常識を破ることができるでしょうか？

次に、アメリカを追い越す生産性を達成するためには広い意味での科学技術において、アメリカをも追い越すことが必要となります。今までのように外国語を勉強し、外国の模倣をすることが学者や技術者の任務であったような状態では、アメリカを追い越す生産性は到底達成されるはずもありません。ところが現在の日本における科学技術面での人材養成や、資金は他国に比べ非常に低く世界第一の水準になるような態度や心構えはうかがえませんが、これから、この課題を果たさなければ日本がアメリカを追い越す生産性に達することはできないでしょう。

上記の如き基本的課題が果たされたとしても、なお公害を減少させ、更にまた公害を発生させないで（地球を汚さないで）高度成長をどう進めるか？　インフレを昂進させないで高度成長と賃金上昇と完全雇用をどう達成するか？

価値観の多極化のなかで、いかに民族的、国家的合意を作りあげるか？　他国のねたみ、そねみ、謀略のなかでいかに国の平静を維持していくか？　一面から見れば、日本民族がいまだ経験したこともない世界に冠たる生活水準の国になろうとしているという意味で何とも結構なことですが、一面では、その世界が、諸々の条件が不充分でありながら、経済生活だけが世界一という非常なアンバランスの上に組み立てられつつあり、このままで推移すると大きな破綻が起こるのではないかというそら恐ろしさを感ずるのであります。

戦後、われわれ日本人は国として民族として軍事、外交面での誇りや権威を奪われ、ひたすら経済の復興に没頭して参りました。そして気がついてみると他の点はともかく、経済面からすれば、日本は超一流になっているのであります。

昔なら英才の過半数は軍人や役人がなったのに、今日では軍人や役人はむしろ英才にとっては例外的就職場所となりつつあります。

かくてこの日本がいかに平和に繁栄を享受できるか、これをリードすべき指導者の英知と努力にかかっていると言えましょう。そして経済こそ世の指導者であり、国の指導者なのです。ですから、企業の後継者がしっかりした理念と魂と能力を身につけて、しっかりした決断と行動のもとに自己の企業を背負って立つと共に、企業外の国の政治や経済や軍事、外交に関しても識見と正しい抱負をもって事に当たることが要請されます。日本を背負って立つのは、その意味で企業のエリートであります。この企業エリートがどのように考え、行動するか。これが明日の企業と日本を決めると考えます。

ところが、戦後日本の教育は戦前教育の正反対であり、戦前教育にあった誤りに反対するあまり、逆の反対の意味での極端主義に走り、大きな誤りを犯そうとしているのではないでしょうか？

そのいくつかをあげれば、

＜戦　　前＞	＜戦　　後＞
唯　心　主　義	唯　物　主　義
右 翼 観 念 論	左 翼 観 念 論
エリート主義	凡　俗　主　義
日本美化主義（国粋主義）	日本軽蔑主義（無国籍主義）

いずれも科学的な冷静な事実を尊重する精神に欠け、イデオロギーが先行した教育であり、その意味では戦後教育は戦前教育と反対の意味で誤りを犯し、しかも、両方とも事実よりイデオロギーが先行しているという意味で同じ誤りを犯していると思われます。

われわれの後継者たる若者たちは、このような教育を受けて企業に入っております。しかも企業の若手は昭和２桁の時代になりました。戦争の恐ろしさと苦しみを知らない人達が、大半を占めようとしているのです。

われわれが多くの死の苦しみのなかから学びとった遺産をこれらの若者たちに正しく伝えなければならないと思います。

今日の日本では、このような正しい教育をしうるものは「実践者」としての企業しかないのであります。その意味で、このような将来の幹部候補たる若手エリートを早く正しく方向づけることが必要だと考えます。

この錬成コースは、このような趣旨で私の長い間の経営指導や企業内の幹部教育の実践のなかから考え出したものであります。将来の企業、明日の日本を背負って立つ若手エリート、大学を卒業して数年前後の人達、販売に開発に生産技術に、人事・財務のスタッフに、その力量を発揮し始めた人達、そして一方で企業内の文化・レクリエーションのリーダーとして、はたまた労働組合のリーダーとして活躍し始めた人達、このような人達の錬成、特にものの見方、考え方、心ももち方、生活態度といった基本的なものを中心に寺子屋式に少数で寝食を共に勉強しようと考えます。

貴社の社員、あなたの部下や後輩のなかで上記の趣旨で是非参加させたい人材がおありでしたら御推薦下さいますよう御案内申し上げます。

1971 年（昭和 46 年）5 月

追　補

『上記は私が昭和 46 年から始めた「若手リーダー錬成コース」（一週間合宿）の開設趣旨書である。そして、48 年暮のオイルショックと、その後の低成長、日本の混迷は、私の「危惧」を現実化した。私は後世に残す使命感を感じつつ、この「若手リーダー錬成コース」を昭和 51 年までに 10 回実施した。』

これは昭和 52 年正月に発刊した『企業および企業人』の「はしがき」の一部であります。この本は「若手リーダー錬成コース」の講義内容の要約であります。

そして、私はこの趣旨書を一言一句も修正することなく、今日そのままで世に問うことのできるのを誇りに存じます。ささやかながら使命感をもって、今後もこの錬成コースを続ける決意です。

1977 年（昭和 52 年）記

再追補

この「若手リーダー錬成コース」は今回までに 87 回実施致しました。この約 45 年間は日本にとって激動の時代でした。しかし、私共の基本理念は変わることなく続いております。

2016 年（平成 28 年）記

若手リーダー錬成講座　基本プログラム

合宿研修前 ２ヶ月	事前宿題 テキスト「企業および企業人」精読・論文作成・各種アセスメント実施・自分史作成

	午　　前	午　　後	夜
第１日 （日）	昼　集　合	オリエンテーション講義 「本講座の意義と受講上の心構えについて」 講義 「日本経済の歩みとこれからの課題」	小グループ討議 「これからの世界・日本の見方・考え方」
第２日 （月）	ＭＤＰ 「これからの世界・日本の見方・考え方」 講義 「生産性と付加価値」	ＭＤＰ 「企業とは何か・経営とは何か」	論文作成 「企業の運命と従業員の運命」
第３日 （火）	論文発表 質疑・コメント・補足講義	ＭＤＰ 「企業の見方」 「経営の見方」 ケース・スタディ 倒産ケース	グループ ディスカッション 「これからの日本の経営のあり方」
第４日 （水）	グループ ディスカッション全体討議 発　表 質　疑 コメント	ＭＤＰ 「企業人のあり方」 講義 「企業人の能力向上法」	論文作成 「わが社の経営の基本課題と解決方向について」 目標設定 「更なる成長に向けた３ヵ月後のありたい姿」
第５日 （木）	論文発表 質疑・コメント 終講式 終了スピーチ・終了講義	昼食後解散	

（注－１）プログラムの一部を変更する場合がありますので、ご了承下さい。

合宿研修後 ３ヵ月間	コーチングセッション 合宿研修で設定した「３ヵ月後のありたい姿」をテーマに、月２回、３ヵ月間にわたりコーチングセッション（１回６０分）を行い、目標達成や行動の習慣化のためのフォローアップを行います。セッションは電話（希望があればスカイプでも可）で行います。 セッション時以外でも、コーチングのテーマに関してはメールによる相談対応を行います。

（注－２）セッションの日時は、合宿研修終了後に人事ご担当者（または受講生本人）と調整の上、６回分を予め決めます。（予定変更の相談には応じます。）

第８８回　　若手リーダー錬成講座実施要領

日　　時　　２０１７年9月３日（日）～9月７日（木）

場　　所　　山形県上山市　蔵王坊平高原　ライザ・ウッディロッジ

（　海抜 1,100m の初秋の絶好の環境、期間中２～３棟借切り。）

交　　通　　①　到着の日は、東北・山形新幹線かみのやま温泉駅にバスを出します。

東京発８：５６→かみのやま温泉着１１：２８分の東北・山形新幹線

「つばさ１２９号」をご利用下さい。

②　現地直行の方は、12：00 までに「ライザ・ウッディロッジ」に御集合下さい

（山形空港より車で１時間 20 分、かみのやま温泉駅より車で 30 分位です)。

（　**ダイヤ変更の可能性もあります**ので上記詳細は、「事前留意事項」で御案内します。）

参加対象　　a　年齢満４０歳以下の基幹社員（３０歳前後が最も可）

b　将来、企業の幹部となる素質のある心身共にすぐれた方

c　このセミナーへの参加推薦を得た人

上記３項目を満たす人

（但し、年齢を超過していても、企業の推薦があり、当方が了解した場合は受講できます。）

定　　員　　３６人

参 加 料　　５日間の合宿研修および３ヵ月間のコーチングセッション、資料代、宿泊費等含む

価格 250,000 円（消費税別）

※特に事情がある場合は５日間の合宿研修のみの受講もお引き受けします。ご相談下さい。

その場合の価格は 178,000 円（消費税別）となります。

ただし、ご入金後のキャンセルはお断りいたします。代わりの方のご参加、または次年度でのご参加で貴社内にてご調整ください。

参加手続　　参加申込書、推薦書を送付していただきます。

原則として、申込順としますが、申込者が適当でないと思われる時は、推薦者に連絡の上、変更をお願いすることがあります。

参加迄の手順

１．申込をいただきますと、当方より会社および本人に受付の連絡をすると共に課題図書**『企業および企業人』（七訂版）**、事前課題論文テーマ及びその他事前課題をお送りします。

２．上記論文を提出していただきコメントを差し上げます。

３．その他必要ならば、事前に勉強しておくことの案内、参考文献・資料等の案内も致します。

４．上記のように開催までに論文提出等で参加者の状態を把握しておきたいと思いますので、

申込確定締切り　　７月末日（参加者確定のこと）

と致します。

５．参加者は最低１ヵ月以上の事前準備が必要ですので、上記締切りを厳守して下さい。

終了時間について

長野・熊本等遠方の方も、当日中に帰着可能なように終了します。

東京・山形新幹線　つばさ１４４号（かみのやま温泉発１４：13→東京着１６：４８）に間に合うようバスを出します。

（　**ダイヤ変更の可能性もあります**ので交通の項①とともに詳細は、「事前留意事項」で御案内します。　）